



横浜市立一本松小学校

10月号

令和4年9月30日  
横浜市立一本松小学校  
校長 高桑 透

# 学校だより

「想像力を働かせて」

校長 高桑 透

夏休みが明けてからほぼ1か月が経ちました。子どもたちは今月迎える「一本松オリンピック」に向けて、日々練習に汗を流しています。まだまだ感染症の心配のある中での行事のため、以前のように開催することはできませんが、子どもたち一人ひとりが輝けるように、しっかりと準備していきます。ご家庭でもぜひ励ましていただき、当日は子どもたちのがんばっている姿を、成長した姿をぜひご覧ください。会場での人数制限など、まだまだご不便をおかけしますが、ご協力よろしくお願いいたします。

先日、5年生と一緒に自動車工場見学に行きました。これまで電車に乗っての校外学習を経験していない子どもたちには、一つひとつ丁寧に指導することが必要です。例えば、歩き方は「きちんと間を空けずに2列で並んで歩くこと」「せまい道では1列になること」「信号や横断歩道は速やかにわたること」。また電車の乗り方についても、「電車に乗るときは、降りる人が先」「電車に乗ったら一言もしゃべらない」「背中の荷物は、後ろの人に迷惑になるので、前にする」などです。家族で出かけるときには意識しないことも、集団で行動する時には、自分たちでよく考えて、その場に合った行動ができるようになることが大切です。どのような行動をしたら迷惑をかけてしまうのか、迷惑をかけないようにするためにはどうすればよいのか、「想像力を働かせる」ことで、自然にできるようになっていきます。

また、自動車工場では、生産ラインを流れるボディに、部品を次々に取りつける様子を見ることができました。働いている人たちは短い時間に正確に部品をとりつけていました。それぞれが自分の役割に責任をもって行うことで、1台の車があっという間に完成していく様子を目の当たりにして、正にプロの仕事だと感心しました。それと共に、一人ひとりが自分の仕事をきっちりやることの大切さ、そして大変さも感じました。もしできていなかったら、ラインを止めないといけないからです。生産ラインを止めることは、そのライン全体で働いている人の作業を止めることになります。作業を止めるということは、たくさんの人に迷惑をかけてしまうことになります。だからこそ、自分のせいでラインを止めたくないと考え、責任をもってやろうとしているのだと思います。また、生産ラインの横に掲げられていた言葉は、

## 「流されたら止める、異常を感じたら止める、止める勇気もプロの仕事」

もし、ラインを止めずに不完全な状態でそのまま流してしまったらどうなるでしょうか。「想像力を働かせる」と、その車を手にしたお客さんが、その不具合のせいで事故に遭ってしまうかもしれません。命を落とすことになるかもしれません。何よりも大切な命を守るためにも、生産ラインで働く人に迷惑をかけることになっても、勇気をもってラインを止めて、きちんと組み立てなければならないのです。それこそがモノづくりのプロの仕事です。

私たちは、自分の今の状況を考えたうえで、この先どんなことが起こるか、相手がどんな気持ちなのかなど、「想像力を働かせる」ことで、より良い行動をすることができるようになります。そのためにも、学校生活の中でも、様々な経験を積み重ねていけるようにしていきます。